

春が来る～春に関する漢字～

シュン はる

春

古代文字

𠄎

もとの字は萐で音を表すのは屯。屯にチュンの音がある。屯は、織物の糸を結びとめた房飾りの形だが、この字の場合は、寒い冬の間閉じこめられていた草の根をいう。それが日の光を浴びてようやく芽を出そうとする意味で、艹を加えて萐となった。「はる」の意味に使う。

オン

あたたか・あたたかい・
あたたまる・あたためる

温

古代文字

𠄎

もとの字は温で音を表すのは盃。盃は皿の上の器の中で物が温められて熱気が満ちている形で、器の中の物が熱気で動いていることを示す。それで「あたたか、あたたかい」の意味となる。その意味を人の性質にもあてはめて、「おだやか」という意味になる。

ガ め

芽

古代文字

𠄎

もとの字は芽で音を表すのは牙。牙はけものの牙で、強くて鋭く曲がった形をしている。草や木の芽もそのような力を含んで生えてくるので、艹をつけて芽といい「め、めぐむ、きざす」の意味に使う。

カ はな

花

古代文字

𠄎

もとの字は華で、花びらが、美しく咲き乱れている形。草や木の花のことをいう。また、「花のような美しさ、はなやかさ」をいう。

オウ さくら

桜

古代文字

𠄎

もとの字は櫻で、音を表すのは嬰。嬰にオウの音がある。桜は日本では「さくら」のことだが、中国ではもとは桜桃（ゆすらうめ）のことをさした。

ジャク・ニヤク
わかい・もしくは

若

古代文字

神に仕えてお告げを伝える女（巫女）が、長髪をなびかせ、両手を上げて舞いながら神に祈り、神のお告げを求めている形。のちに、日（神への祈りの文である祝詞を入れる器の形）を加え、祝詞を唱えて祈ることを表す。神のお告げを求めて祈る女が神に乗り移り、うっとりとした状態にあることを示すのが若である。お告げを求める女が若い女であったので、「わかい」の意味に使われるようになったと考えられる。

サイ な

菜

古代文字

もとの字は菜で、音を表すのは采（采）。采は木の上に爪（手、指先）を加えて、手で木の実を摘み取る意味である。菜は「な、やさい」の意味に使う。

シン あたらしい・
あらた・にい

新

古代文字

辛と木と斤とを組み合わせた形。辛は入れ墨用のとっ手のついた大きな針。斤は木を切る時の斧。死者の名前を書いた木の札（いはい）を作るための木を選ぶ時、針を投げて当たった木を斧で切った。そのことを新といい、木を新しく切り出すことで、「あたらしい、はじめ」の意味となった。

ソツ

卒

古代文字

衣服のえりを重ねて結びとめた形。死者の衣服のえり元を重ね合わせて、死者の霊が死体から出たり、また、悪い霊が入り込むことを防いだりするものらしい。それで、「しぬ、おわる、つきる、ついに」の意味になる。